

臨川選書

泉森 皎・伊藤勇輔著

遺物が語る 大和の古墳時代

〔臨川選書 7〕

■ 四六判・並製・266頁

本体1,540円＋税

藤ノ木古墳の冠・飾履などを含む大和地方の古墳から出土した遺物を、種類別122項目に亘って総覧する待望の書。遺物は更に用途によって埴輪、生活用具、服飾、武器・武具・馬具・葬送品に分類され、様々な角度から古墳時代の生活を浮き彫りにするとともに、付された重要遺物の写真は古代の美と雰囲気をも十分に伝える。

ISBN978-4-653-02592-4 [93/12]

C・クーマン著/船越昭生監修/長谷川孝治訳
近代地図帳の誕生

A・オルテリウスと『世界の舞台』の歴史

〔臨川選書 11〕

■ 四六判・並製・171頁・口絵5点・図版多数

本体2,300円＋税

〈残部僅少〉

地図学の分野で数々の貴重な業績をあげているオランダの学者C・クーマンの著作の翻訳。地図学の父と呼ばれるA・オルテリウス（1527～98）の伝記と、大航海時代の成果を結実させた彼の手による史上初の近代地図帳『世界の舞台』の内容と発展について詳説する大変興味深い書。著者による日本語版序文、訳者による人名索引付。

ISBN978-4-653-03304-2 [97/6]

宇佐美 斉著

フランス詩 道しるべ

〔臨川選書 12〕

■ 四六判・並製・224頁・図版9点

本体2,100円＋税

フランス詩についてのエッセイ集。第1部では広く詩歌の起源（呪術としてのうた）から説き起こし、韻文から散文への詩のことばの変遷を、シュルレアリスムの「イメージの詩学」に至るまで、比較文学的視点も交えて綴る。第2部は7人の詩人について原詩を豊富に引用しながら語り、前世紀前半から戦後に至るフランス詩の流れを辿る。

ISBN978-4-653-03307-3 [97/12]

小林文広著

明治維新と京都

—公家社会の解体—

〔臨川選書 14〕

■ 四六判・並製・230頁・図版多数

本体2,300円＋税

明治維新によって、千年以上続いた「都」としての地位から一転して「一都市」へと転落した京都は、旧来からのあらゆる特権の剥奪や身分集団の解体に直面する。本書は主に「公家社会」「官家士族」といった世界に焦点を当て、いわば無名の人物たちが、この時代いかに行動したかを通して、都市復興を目指した当時の京都の実像に迫る。

ISBN978-4-653-03497-1 [98/6] [00/4]

柏倉康夫訳・著

マラルメの「大鴉」

エドガー・A・ポーの豪華詩集が生れるまで

〔臨川選書 15〕

■ 四六判・並製・242頁・口絵2点

本体2,200円＋税

エドガー・A・ポーに心酔し、その詩学から絶大な影響を受けたマラルメ。ポーの詩の仏訳出版という彼の長年の野心が初めて実現したのが、E・マネ画の豪華版『大鴉』の出版だった。19世紀フランスの豪華本出版史上にその名を残す版元R・レスクリードの未刊の書簡を基に、『大鴉』出版にまつわる興味深いエピソードが初めて明かされる。

ISBN978-4-653-03560-2 [98/10]

柏木隆雄著

イメージの狩人

—評伝ジュール・ルナール— 〔臨川選書 17〕

■ 四六判・並製・250頁

本体2,500円＋税

日記や書簡からの引用をおりまぜて生涯を辿り、その時々を生み出された作品を取り上げ、時には原文を引いて文体の面白さを味わう。『にんじん』の冒頭章「にわとり」の持つ意味は？多くの友人を持つ現実と裏腹に友人との訣別を作中に記す心情とは？等、ルナール独特の人間性とその作品についての魅力溢れる指摘に満ちた新しい評伝。

ISBN978-4-653-03635-7 [99/4]

山崎達雄著

らく ちゆう ちり すて ば いま むかし
洛中塵捨場今昔

〔臨川選書 19〕

■ 四六判・並製・220頁

本体2,500円＋税

都市として有数の歴史を誇る京都では、すでに江戸時代からごみ処理が都市問題として浮上していた。京都のごみ問題に携わってきた著者が、江戸時代の塵捨場、明治維新とごみのリサイクル、近代的な焼却炉の建設など、ごみとその処理をめぐる人々の活動を綴る。新しい視点で解き明かす、知られざる京都の近現代史。

ISBN978-4-653-03548-0 [99/9]

所 功著

菅原道真の実像

〔臨川選書 20〕

■ 四六判・並製・244頁

〈書籍版〉品 切 〈電子出版〉今夏配信予定

早くから「文道の祖・詩境の主」と敬われ、今なお「天神さま」と仰がれる菅原道真を、平安宮廷の代表的な文人官吏として実証的に描き出す。「天神信仰」対象としての「伝説」道真ではなく、歴史上でいかに生きた人物か、という視点から、その人物像を史料を基に解き明かす。参考資料として学説史・年表・系図を付す。

ISBN978-4-653-03757-6 [02/4]

松本 昭著

増補 日本のミイラ仏

〔臨川選書 21〕

■ 四六判・並製・300頁

〈書籍版〉品 切 〈電子出版〉今夏配信予定

人間が肉身のまま仏になる即身仏——霊山・出羽三山に数多く残る即身仏の調査をもとに、日本のミイラ仏研究の足跡を記した貴重な書。即身成仏の真髓を語る秀快上人をはじめ、「捨身入定」を実行した待定法師の最新調査成果を盛り込みながら、神祕のヴェールに包まれていたミイラ仏の謎に迫り、その思想的な背景を探る。

ISBN978-4-653-03805-4 [02/10]

関沢まゆみ著

隠居と定年

—老いの民俗学的考察— 〔臨川選書 22〕

■ 四六判・並製・200頁

本体2,300円＋税

高齢化社会を迎えた今日、定年後の生き方は大きな社会的関心事となっている。温故知新の学問、民俗学の立場から日本の伝統的村落社会に残る隠居の慣習に豊かな老いのあり方のヒントを探り、都市部・海外へも視野を広げる。自らの老い・死を自覚した時、新たな生き方を見出す人間の姿を浮き彫りにする好著。

ISBN978-4-653-03915-0 [03/3]

宮川禎一著

龍馬を読む愉しさ

—再発見の手紙が語ること— 〔臨川選書 23〕

■ 四六判・並製・220頁

本体2,000円＋税

坂本龍馬が家族や知人にあてた手紙には「幕末の英雄」というイメージに止まらない龍馬の人間の魅力が溢れている。京都国立博物館で龍馬関係資料を担当する学芸員が近年再発見された龍馬の書簡類をもとに新たな観点から龍馬像を再構築する。話題となった龍馬の妻「おりょう」の写真問題にも踏み込んだ見解を示す龍馬愛好家必見の書。

ISBN978-4-653-03918-1 [03/10]

山下道代著

伊勢集の風景

〔臨川選書 24〕

■ 四六判・並製・260頁

本体2,500円＋税

『伊勢集』にまつわる様々な風景を、深い学識に支えられた、簡潔で読み易いながらもドラマティックな文章で語る。和歌の妙を解りやすくときほぐし、女流歌人伊勢の知られざるエピソードを紹介し、伊勢の造語、周辺人物、当時の生活・風俗・政治概況、後代の受容など多種多様な角度から『伊勢集』に迫る。

ISBN978-4-653-03919-8 [03/11]

山本光正著

江戸見物と東京観光

〔臨川選書 25〕

■ 四六判・並製・220頁

本体2,300円＋税

東(旧来の江戸)から西(京王線・中央線沿線の「武蔵野」)へ、時代と共に変貌する行楽地、何度もの被災から蘇り、江戸城から六本木ヒルズまで新たな観光資源を生産し続ける巨大観光都市の魅力とは。近世旅日記の江戸見物と近代東京の観光案内書を手がかりに、観光地としての「江戸・東京」の特徴をあぶりだす。

ISBN978-4-653-03953-2 [05/2]

西海賢二著

近世のアウトローと周縁社会

〔臨川選書 26〕

■ 四六判・並製・200頁

本体1,900円＋税

近世、巡礼・遍路・虚無僧・舞太夫・物貰い等、諸国を旅した民間宗教者は身分制の枠組みに収まらないアウトローのような立場の人々であった。様々な宗教的職能者がどのように各村々を廻り、地域社会がどう受け止めていたのか。民間者と受け入れる村の関係の視点を据え、在地の民間信仰・芸能文化・支配体系のあり方と共に考える。

ISBN978-4-653-03961-7 [06/2] [11/1]

西海賢二著

江戸の女人講と福祉活動

〔臨川選書 27〕

■ 四六判・並製・220頁

本体1,900円＋税

江戸時代から近世にかけて農村を中心に活動の盛んだった女人講は、女性のみで団体としてその特徴があるが、その活動内容は福祉活動と密接な関わりがあった。女人講の誕生からそのありようの移り変わりをさまざまな例を見ながら考察し、福祉活動という視座から女の人生の諸問題に迫る。

ISBN978-4-653-04083-5 [12/5] [13/1]

狩野博幸著

荒ぶる京の絵師 曾我蕭白

■ 四六判・上製・216頁・口絵4頁

本体2,500円＋税

京都国立博物館企画展『曾我蕭白—無頼という愉悅—』における関連講座の講義録。若くして頼るべき肉親を亡くし、たった一人画家として生きていくことを選んだ蕭白の悲哀と憤り、そして喜びを、豊富な作品紹介と文献考証を交え、ユーモアたっぷりに解き語る。新出含む39作品を収録。蕭白の新たな魅力に出会える一冊。

ISBN978-4-653-03932-7 [07/1]

渡辺紳一郎著／装画・棟方志功

おとなのおとぎ話

■ 四六判・並製・232頁

本体1,700円＋税

NHK ラジオ放送のクイズ番組『話の泉』の名解答者として活躍した著者の短編エッセイ集。イタリア・フランス・中国などの歴史と文化に関する深い教養、マスコミ業界をはじめとする幅広い見聞にもとづいた、時に思わず吹き出すような大人のための「おとぎ話」の数々。博識にして洒脱な人、渡辺紳一郎の世界をお楽しみ下さい。

ISBN978-4-653-03912-9 [02/11]

大江 篤著

日本古代の神と霊

■ A5判・上製・314頁

本体4,600円＋税

「神」「霊」に関わる「祟」「怨霊」、そして「供養」をキーワードに、古代の史料を読み解く。天変地異・政変がひき起こす争乱や人智を超えた怪異に曝されて生きた人々が認知・畏怖した「神」「霊」の存在と、その背後に隠された、歴史的事実を探る試み。「神」と「霊」が照射する、古代の人々の心のうちにせまる意欲作。

ISBN978-4-653-03967-9 [07/2]

東アジア恠異学会編

亀卜 歴史の地層に秘められた
うらないの技をほりおこす

■ B6判・上製・272頁

本体2,500円＋税

東アジアで古代より行われてきた古い「亀卜」。古代、中世では国家運営の重要な指針とされていたにも関わらず、亀卜の技法は秘事・口伝であったため、全容は明らかにされていない。恠異学はもとより、歴史学・動物学・民俗学・考古学など学際的な共同研究のもとで、ウラを読む技と知を考える。

ISBN978-4-653-03962-4 [06/5]

東アジア恠異学会編

恠異学の技法

■ A5判・上製・440頁

本体3,000円＋税

「恠異」はどのように起こったのか、「恠異」を人々はどのように受けとめたのか、そして「恠異」の背後にひそむものは何か。史料に記された「恠異」は現在まで歴史学研究の枠外におかれ、正面から「恠異」をとりあげた研究は極めて少数であった。まさに際物たる「恠異」を歴史から汲み上げ正規の研究対象として読み解くことで、浮かび上がる新たな「歴史」を探る、新機軸の一書。

ISBN978-4-653-03846-7 [03/11] [07/1]